

池尻展子

## 夕時

燐寸を擦る手をじっと見ていた  
焚付けの柴の匂いと風呂釜のひび  
山の縁から最後の夕日が溢れて  
ねえ 五時の鐘が鳴ってる

## 読むこと

あなたに紡がれた言葉たちは  
頁を辿る指さきから火を灯して  
瘡蓋の剥がれ落ちたあと  
わたしに宿る星星になり  
しずかに燃え続けています